

日本臨床歯科学会大阪支部 2020 年度 ” 第 2 回学術大会
(大阪 SJCD 第 215 回例会) Web 開催報告

2020 年 12 月 5 日 (土)

講演配信会場：オービック御堂筋ビル

令和 2 年 12 月 5 日 (土) 会場『オービック』から日本臨床歯科学会大阪支部 2020 年度第 2 回学術大会 (大阪 SJCD 第 215 回例会) が Web にて開催配信された。



黒住理事司会進行のもと、座長米澤支部長にて SJCD International 常任理事木原敏裕先生による特別講演「新型コロナウイルス禍における仕事の考え方」が Zoom 配信された。



前半は新型コロナウイルス感染症で「かわったこと」と「わかったこと」と題して、保険の患者さんは来院しなくなるが自費の患者さんはキチンと通院される。患者数は減ったが、その分ゆっくりとコンサルテーションができ治療の時間も余裕を持って十分取れるため、逆に医院の売上は増えた。プライベートでは奥様と平日の夕食や週末を一緒に過ごす時間が増え、ゴルフによく行けるので上手くなった。と希望を与える内容から始まった。

また、堀江貴文さんの著書「時間革命」を引用し、時間の使い方や Interdisciplinary Dentistry と同様に全部を自分でやろうとせず他人にも任せ「自分は得意なことに集中する」重要性と、本当の意味で患者さんにとって良い方向を考えることで、こちらの考えを受け入れてくれる患者さんを増やす必要性を訴えていた。

後半は 30 年間ほぼ変化していない安定している天然歯列のケースをまず提示し、その後 80 年代～90 年代からの長期経過ケースを通して、矯正治療による歯列・環境の改善を行っておけば、失活歯が抜歯になってしまった場合でもインプラントにより歯列の安定が図れるため Tooth Position の重要である。と述べられた。

また、別症例においては、上顎歯牙がすべて予後不良と考えられる失活歯の全顎矯正が必要な骨格性Ⅱ級歯列で、60 代後半の患者さんに対し、十分な診査、Wax up、再評価ならびにコンサルテーションを行った上で「診断は矯正、処置はインプラント」という上顎フルインプラントの 10 年経過フルマウス症例を通じて、Ⅰ級歯列の大切さと失活歯の難しさを述べられた。

締め括りとして最後に、天然歯列を参考とした正常像（理想像）を歯科医師が十分に頭に入れて治療を行う必要があるとまとめられ、最後に大森副支部長の挨拶にて閉幕となった。



